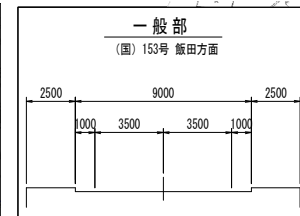
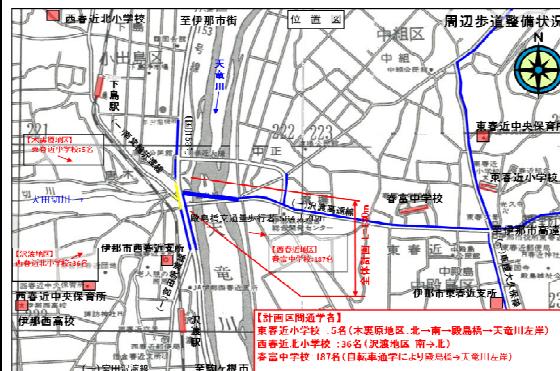


(様式2)新規評価シート

建設部 道路管理課

事業名		交通安全施設等整備事業		路河川名等	(国)153号					
事業毎の通番		8	市町村名	伊那市	箇所名(ふりがな)	沢渡(さわんど)				
事業概要	事業目的	平成18年7月豪雨で被災した殿島橋の架け替え事業を平成18年～平成21年度にかけて実施した。新殿島橋が上流に架け替えられたが、国道153号の横断歩道が従来の位置であるため、歩行空間の確保及び慢性的な当該箇所での渋滞緩和の一助として沢渡交差点の改良が検討された。朝夕の通学・通勤時間では、国道153号を横断する歩行者・自転車が、地元及び小中学校から要望が強い。								
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	第5編 施策の総合的展開 第4章 4-2 県民生活の安全確保 第5章 5-2 快適で暮らしやすいまちづくり		事業実施の根拠法令等	社会資本整備重点計画 交通安全施設等整備事業に関する法律					
	関連する事業、計画等	通学路緊急合同点検								
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	東春近及び西春近北小学校、春富中学校 通学者 他 現況自動車交通量:17,900台/日、現況交通量(歩行者・自転車)564人/12h								
	着手年度	平成27年	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)				
	完成年度(見込み)	平成31年	費用対効果	—	国庫	180,000	其他	108,000	一般財源	12,000
	全体事業内容(主な工種)	歩道設置工 L=180m			300,000	180,000		108,000	12,000	
年度事業内容(主な工種)	自歩道橋詳細設計 1式			0	0		0	0		
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	歩道利用者の安全確保、特に通学児童の交通事故の減少が期待される								
	間接的効果(定量的・定性的)	緊急輸送路、バス路線の整備 通行車両の交通事故抑制								
評価の視点	必要性	○現況自動車交通量:17,900台/日 ○現況自転車歩行者交通量:現況交通量(歩行者・自転車)564人/12h					評価	A		
	重要性	○関連計画、重点施策との整合:通学路緊急合同点検 ○緊急輸送道路の路線指定:県緊急輸送道路(1次)に指定					評価	A		
	効率性	○事業期間:5年間(H27～H31)					評価	C		
	緊急性	○近年の交通事故件数:1件 ○通学路対策:H24緊急合同点検を踏まえた対策箇所(犬田切橋・沢渡交差点) ○現況の歩道幅員:歩道なし					評価	A		
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知(H23.7地元説明) ○地域の取り組み:協力的である ○地域の合意形成:合意形成が図られている ○住民との協働:住民関与が低い(今後予定)					評価	B		
	部意見	交通量、自転車・歩行者が多い通学路であり、安全な歩行空間を確保するため、早期の歩道整備が必要である。	行政改革課意見	歩道空間の確保と慢性的な渋滞緩和を図ることから、必要性が高く、重要性、緊急性が認められる。	評価結果	○	総合評価	A		

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



国道153号 沢渡交差点 春富中学校生徒 下校時の横断状況 (一)南箕輪沢渡線 唐ノ木 西春近北小学校児童登校時の状況

事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	沢渡交差点は国道153号の改良に伴い旧道が斜めに合流する形状であり、また旧殿島橋橋詰めの交差点に近接しているため交差点長の長い変則交差点となっている。殿島橋の架替に伴い、殿島橋との接続を考慮した交差点形状の見直しの機運が高まった。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は、伊那市春富中学校、伊那市西春近北および東春近小学校の通学路となっていることから、殿島橋架替促進協議会の検討会の中で、架橋位置変更に伴う周辺歩道環境の改善要望が出された。
③事業説明等の経緯	H22.2月 沢渡交差点改良検討委員会発足。 H22.6月 検討委員会と交差点形状について協議。 H23.7月 地元地権者へ計画説明。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	災害関連事業 殿島橋
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	殿島橋の取付道路とともに交差点周辺の修景について検討している。
⑥地域活性化への影響と配慮	安全で快適な歩道空間の整備により沿道の活性化が図られる。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 35° 48' 18.97"
東経:E 137° 56' 49.65"